

東北地方太平洋沖地震による道路交通への影響 (地震発生後1週間の状況)

1. 広域的な交通流動の変化

- 東日本の主要高速道路では、地震後に多くの路線で交通量が減少する一方、西日本の主要高速道路では横ばい。

- 中部－関東地方間の交通流動は、ほぼ横ばい。
- 関東－東北地方間の交通流動は、約3割減少。
- 関東－東北地方間の太平洋側ルートの交通量は、概ね半減。
(常磐道ルート48%減、東北道ルート47%減)
- 東名ルートの交通量が減少し、日本海側ルートがやや増加。
(東名ルート5%減、北陸道ルート5%増、関越道ルート7%増)

2. 北陸地方の交通状況

- 新潟と山形方面を南北に結ぶ国道7号では、大型車交通量が2.4倍に増加。
- 新潟と郡山方面を結ぶ国道49号、南陽、福島、仙台方面につながる国道113号では、3月15日以降、交通量が約2倍に増加。

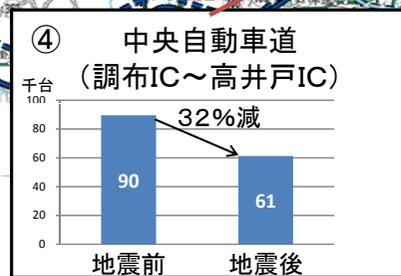
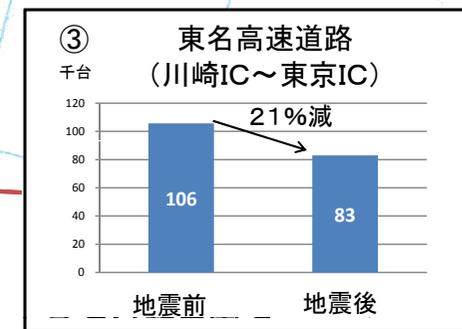
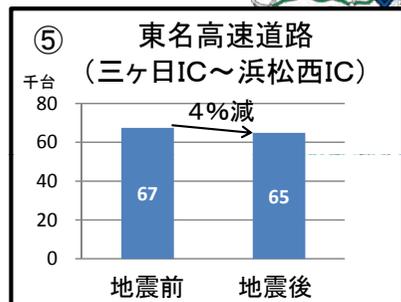
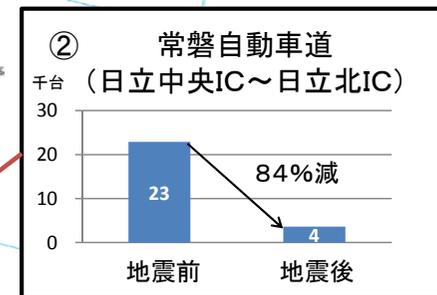
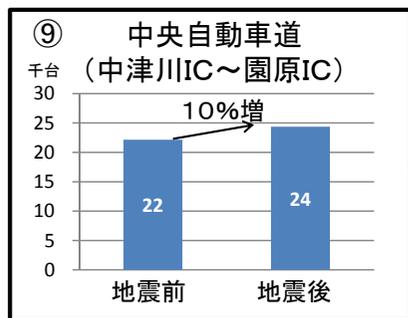
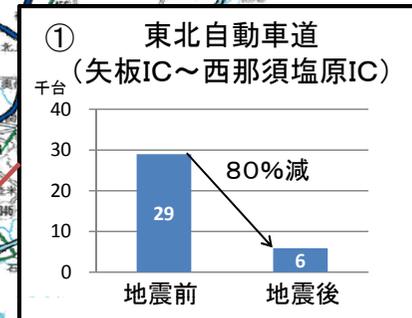
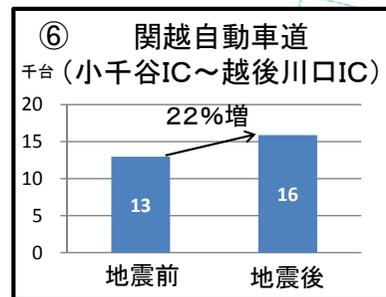
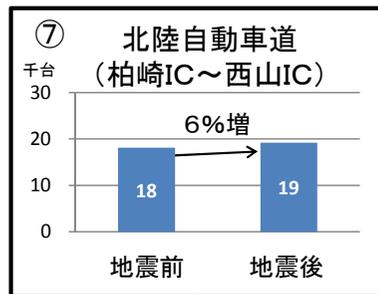
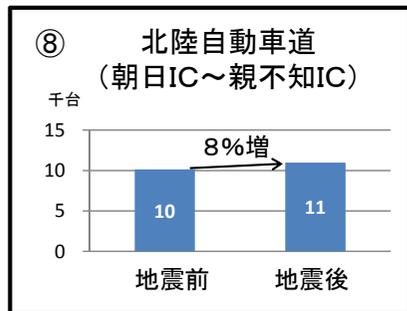
3. 首都圏の交通状況

- 東名・中央道等、高速道路の交通量は地震後に大きく減少。
 - (東名高速 21%減、中央道 32%減、関越道 24%減、
東北道 95%減、常磐道 72%減、東関東道 67%減)
- 首都高速の交通量は、地震後に大きく減少。特に普通車の減少が顕著。
 - 普通車交通量 58%減 (3/11) → 35%減 (3/17)
 - 大型車交通量 49%減 (3/11) → 8%減 (3/17) (過去5年平均との比較)

東日本の主要高速道路の地震前後の交通量の変化

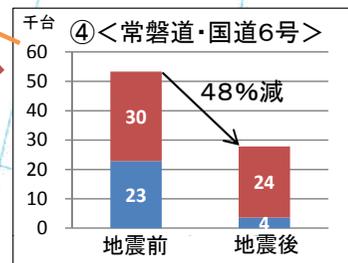
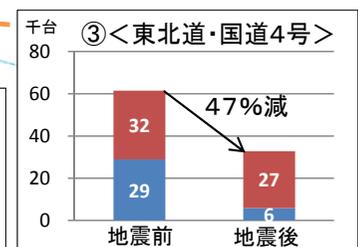
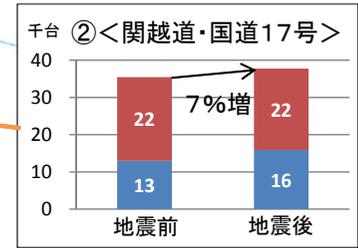
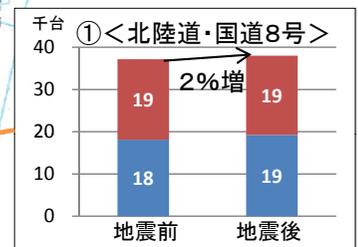
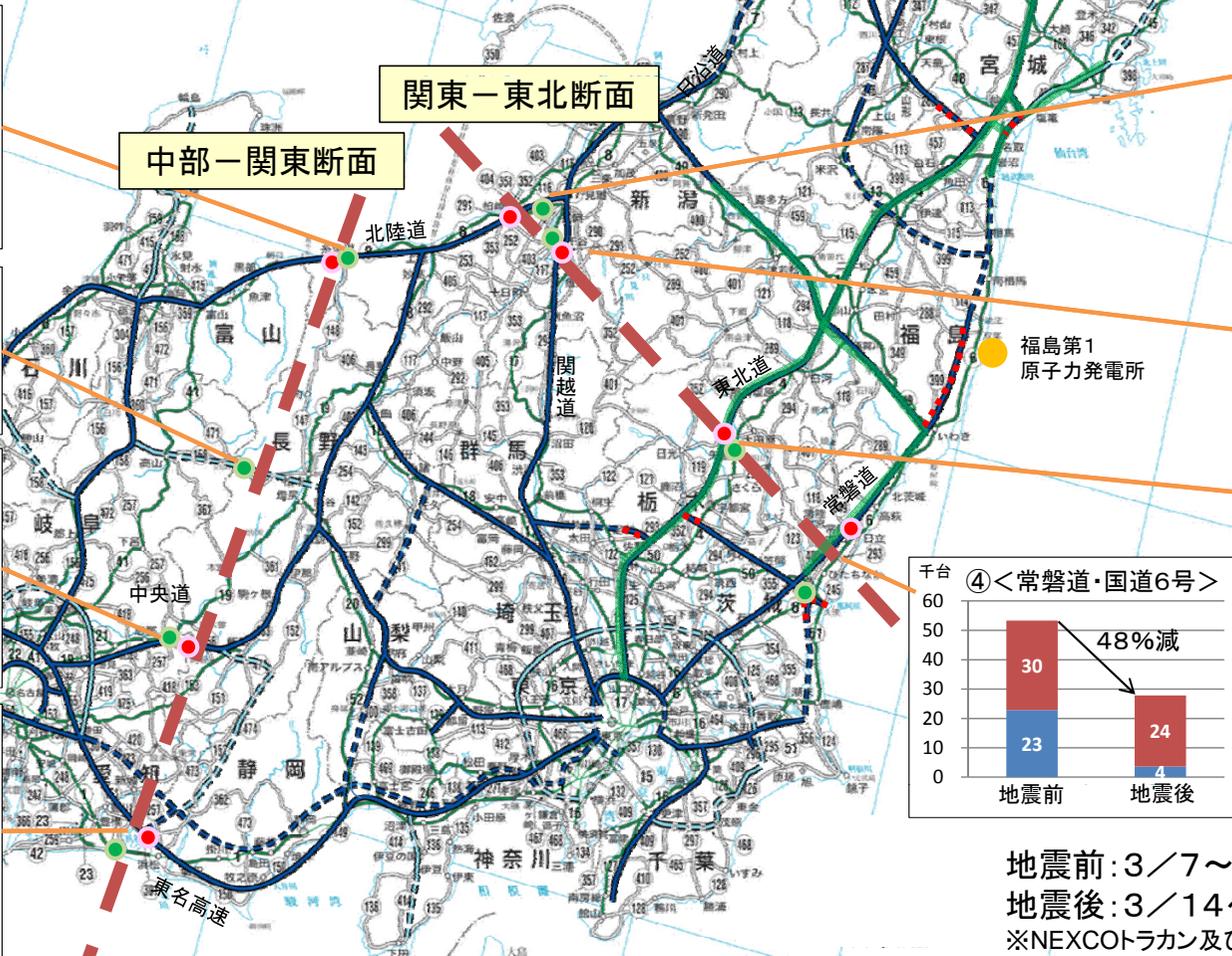
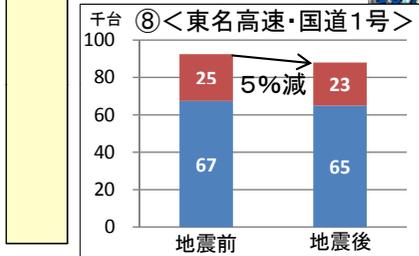
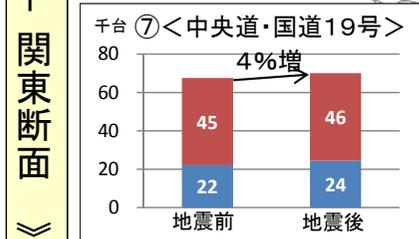
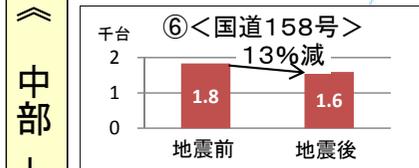
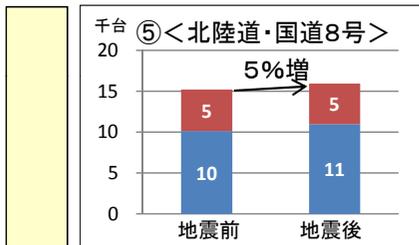
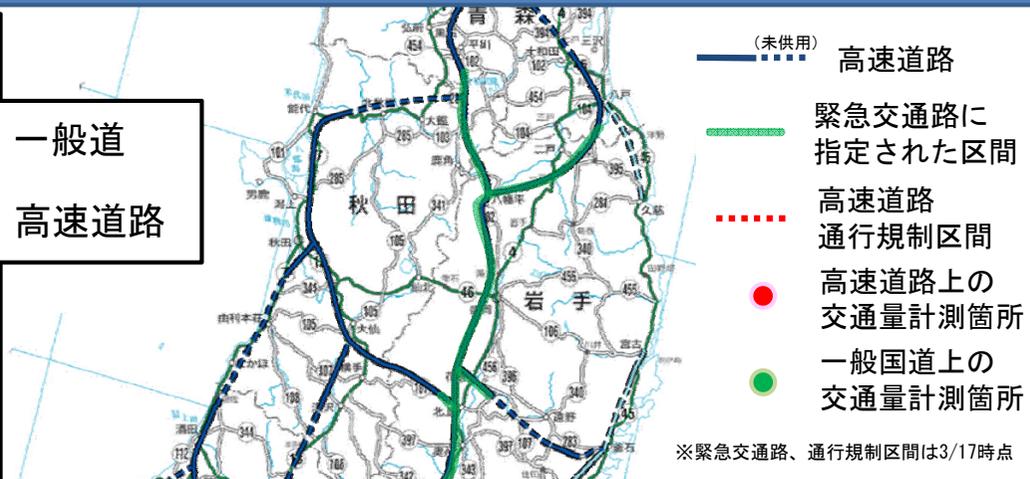
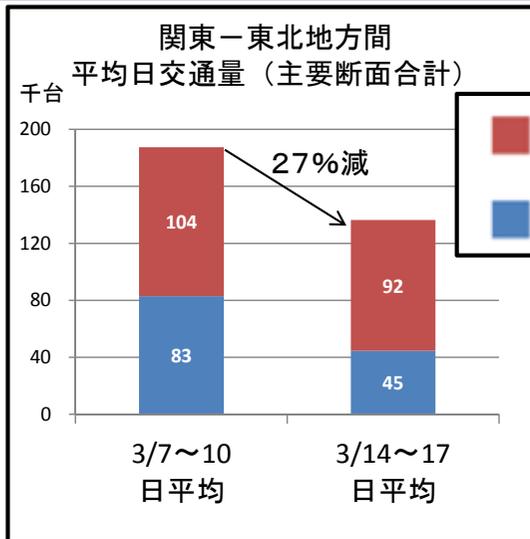
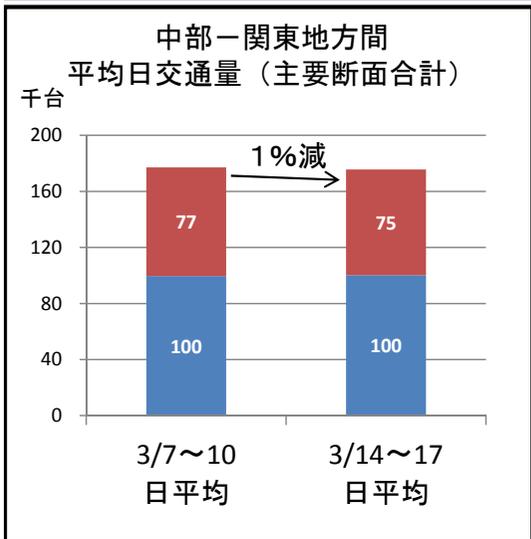
— : 高速道路
(未供用)

● 交通量計測箇所



地震前: 3/7～3/10の日平均交通量
地震後: 3/14～3/17の日平均交通量
※NEXCOTラカンデータにより作成

中部-関東地方間、関東-東北地方間の地震前後の主要断面交通量の変化（高速道路、直轄国道）



地震前: 3/7~3/10の日平均交通量
 地震後: 3/14~3/17の日平均交通量
 ※NEXCOトランク及び直轄トランクデータにより作成

中部-関東断面

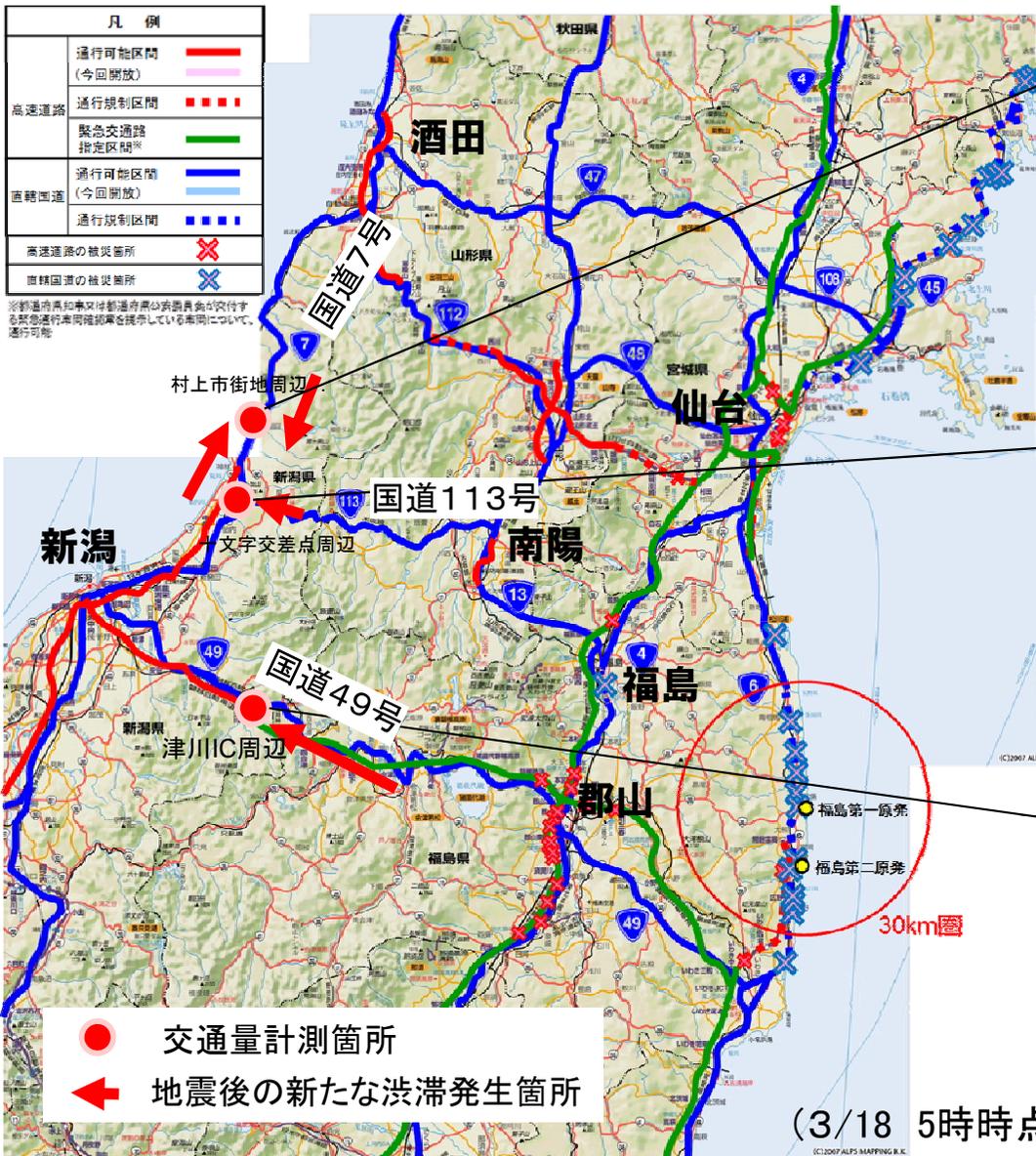
関東-東北断面

北陸地方の直轄国道の地震前後の交通量の変化

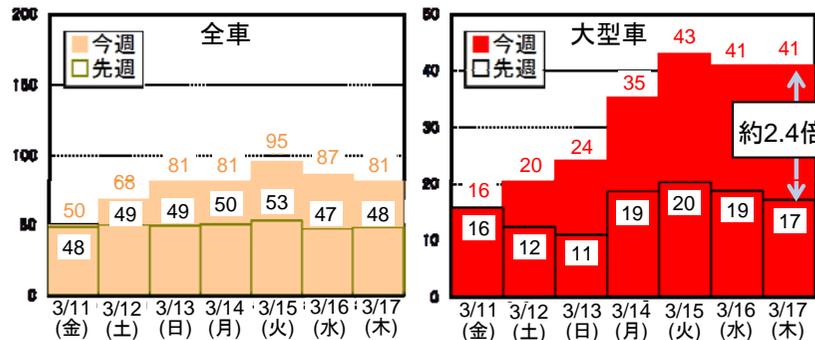
- 新潟と山形方面を南北に結ぶ国道7号では、大型車交通量が2.4倍に増加。
- 新潟と郡山方面を結ぶ国道49号、南陽、福島、仙台方面につながる国道113号では、3月15日以降、交通量が約2倍に増加。

【新潟と隣県諸都市を結ぶ主要国道の日交通量の推移】

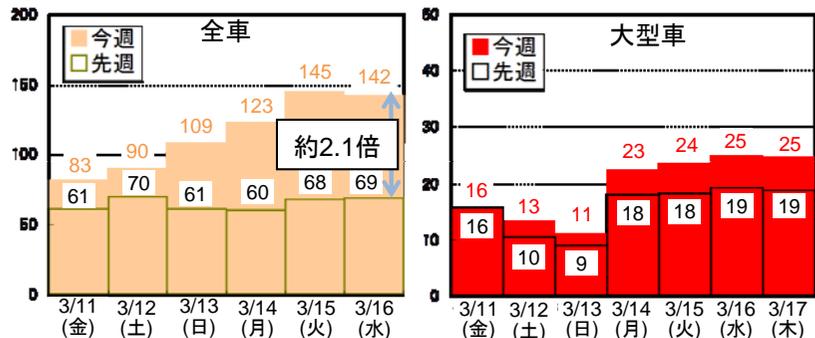
凡例	
高速道路	通行可能区間 (今回開放)
	通行規制区間
	緊急交通路指定区間※
直轄国道	通行可能区間 (今回開放)
	通行規制区間
高速道路の被災箇所	新潟県
	山形県
※新潟県県民生活部又は新潟県県民生活部が交付する緊急通行車両確保要請書に基づいて通行可能	



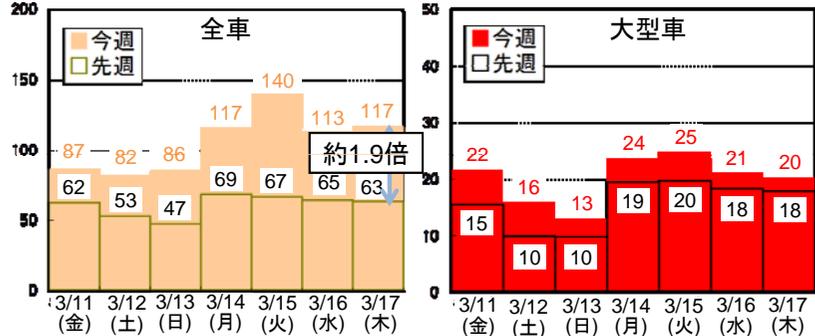
国道7号 新潟—酒田方面 (村上市街地周辺)



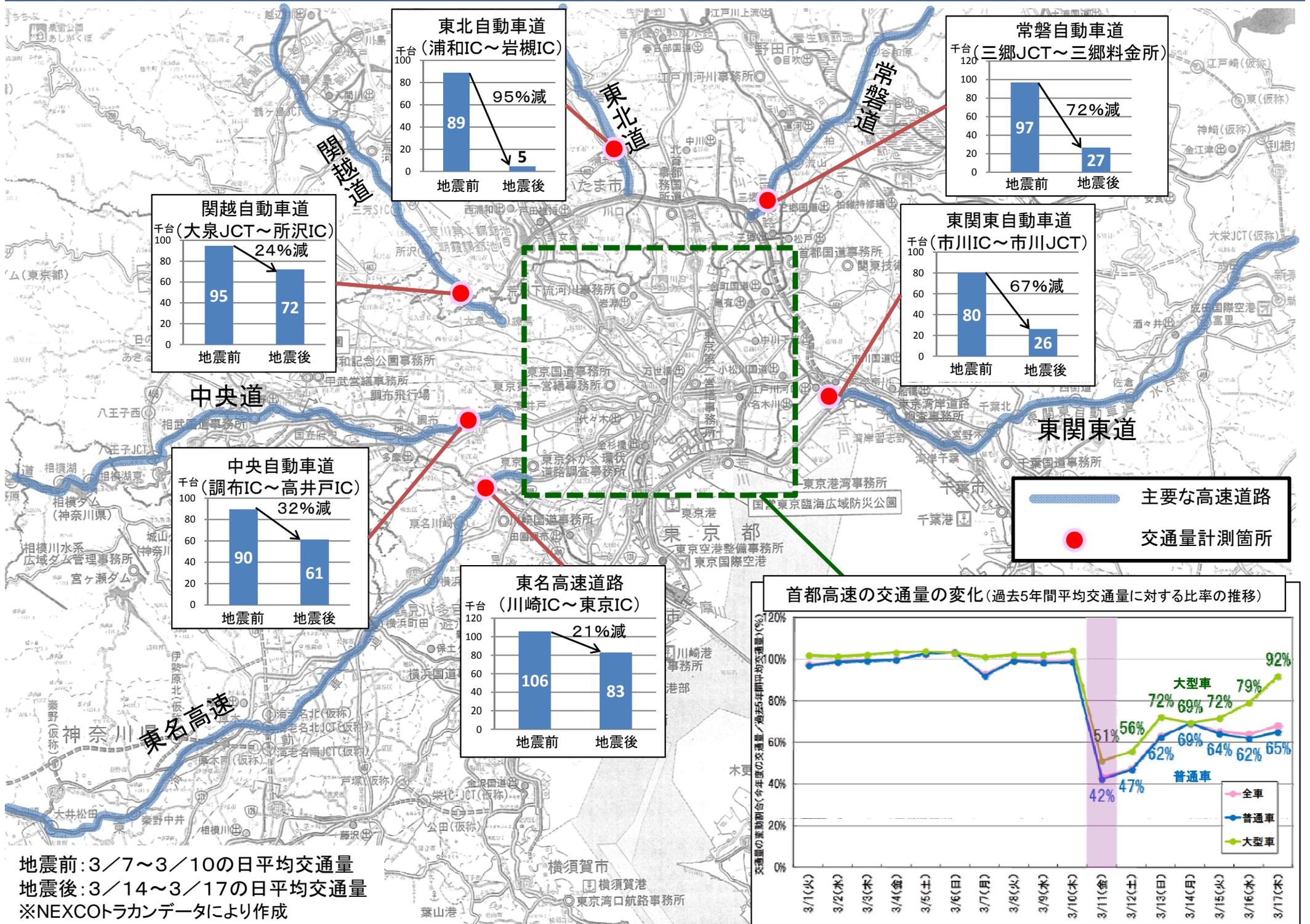
国道113号 新潟—南陽・福島・仙台方面 (十文字交差点周辺)



国道49号 新潟—郡山方面 (津川IC周辺)



首都圏の主要高速道路及び首都高速の地震前後の交通量の変化



地震前:3/7～3/10の日平均交通量
 地震後:3/14～3/17の日平均交通量
 ※NEXCOTラカンデータにより作成